

皆さんは退屈したときにどうしますか？チンパンジーはあまりに退屈すると、暇つぶしに自分で自分をくすぐって笑うそうです。人間の脳は「触る」という行動を予測するため、自分でくすぐっても驚きがないけれどチンパンジーの脳はそこまで発達していないのでくすぐったさを感じるのだとか。なんて平和な暇つぶし！

今年のカープは違うぞ！ *Carp*

色とりどりに様々な花が咲き競う美しい季節を迎えました。吹く風の中に気持ちよさを感じる今日この頃ですが、急な気温変動もありますので、風邪などひかれませんようお気を付けくださいね。

さて、我らがカープ。

4/6のDeNA戦に勝利し、本拠地マツスタに戻ってきて3連勝を飾った。オープン戦終盤に正捕手の坂倉をケガで欠き、開幕序盤に4番モンテロ、5番秋山も負傷。1番打者に定着しつつあった二俣はバンド失敗の打球が顔面を直撃し、前歯を損傷する大ケガを負った。

この3連戦中も矢野、曾澤がデッドボールを食らうアクシデントに見舞われており、「そんな状態でよく勝てたもんだ」というのが正直な感想だ。二俣は強行出場を続けたが、その二股をスタメンから外した6日、前夜にサヨナラ本塁打を放った田村が4番に入った。レギュラー選手がケガをしても「代役」が出てくるのが今季のカープの強さだ。

今年の広島での戦いについて、意外な感想が聞かれた。「やりにくい」との声が続出している。オフの間にマツスタの照明がLED化され、内外野の天然芝が9年ぶりに張り替えられたことがその理由だという。

ビジターチームが指摘するのは、「LED化されて上空が白く見える」「ゴロ打球がイメージした箇所に来るのが遅い」など。6日の試合では、二塁を守るDeNAの牧がゴロ打球を取り損ねた。前日もDeNAの三塁失策が2つ記録されている。守備に難ありとされているDeNAだが、開幕カードをマツスタで迎えた阪神からも「やりにくかった」との声が聞かれた。慣れるしかないのだろうが、他にも球界関係者からこんな指摘がある。「昨年、マツスタを苦手とするチームがいくつかあった。四方全てが広島ファンで埋まり、ビジターチームの応援団はレフトのファウルゾーン後方席に陣取る形態なので、それを気にする選手もいた。」チームの救世主は新しい天然芝、LED照明、我々ファンかもしれない。

今のカープは打線の勢いも止まらない。15日中日戦では12安打7得点と快勝し、首位を走る。中でも3打点を挙げた末包は驚異の得点圏打率.600を誇る。打率.356と絶好調だ。小園も打率.424で首位打者争いをリードする。

昨季、チーム打率と本塁打がリーグ最下位と貧打に苦しめられ、終盤の失速につながった。しかし、今季は15試合を終えて60得点でリーグトップ。待望の主砲候補が打線の中心に座る今季のカープ。昨年の屈辱を果たす戦いへ最高のスタートを切った。



頑張れカープ！！

エルフォルクはあなたを そしてカープを 全力応援致します！

裏面もご覧ください。